

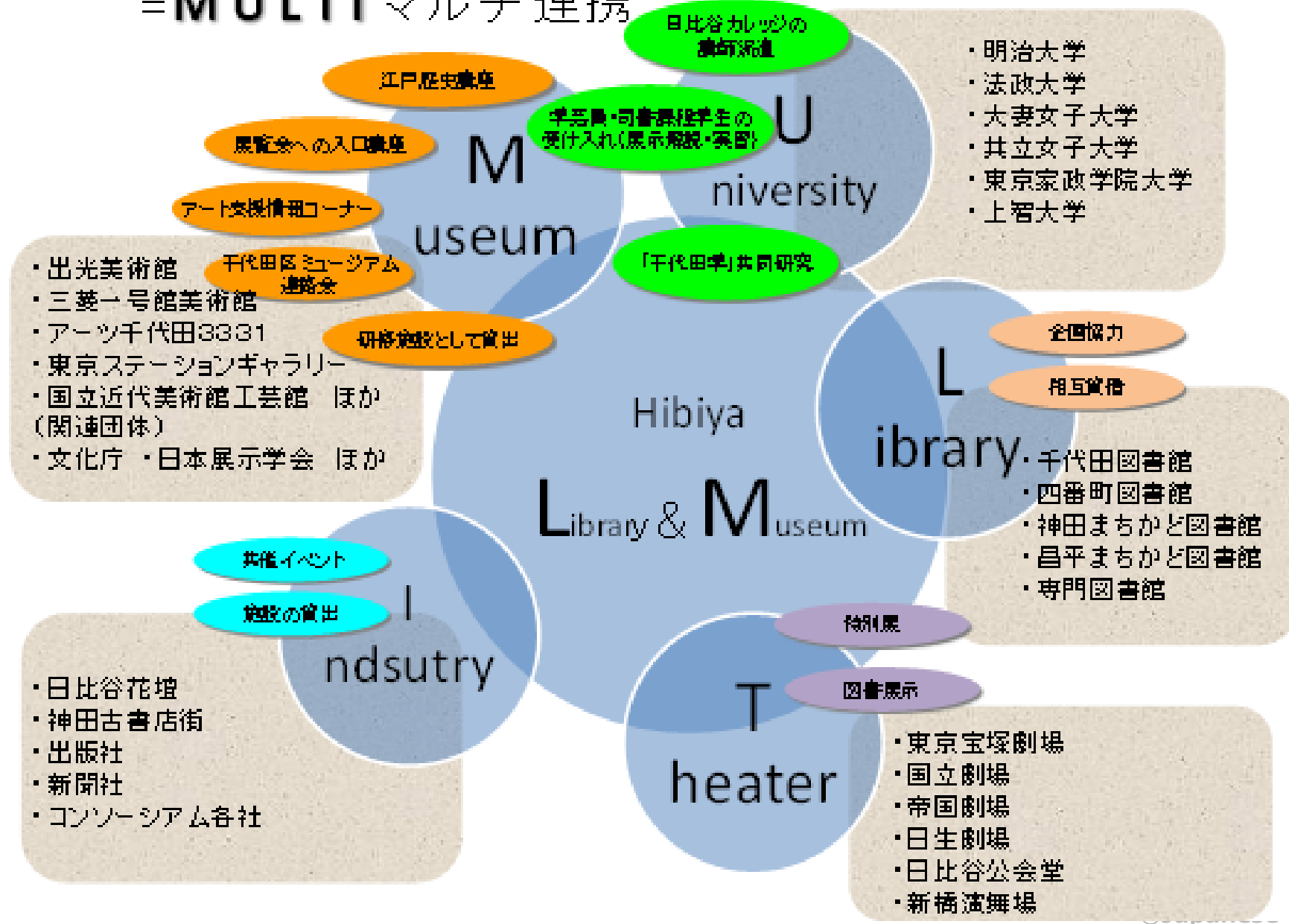


東京2020大会資産の収集・保存と その活用について

日本オリンピック委員会
OM推進部ミュージアム室
下湯直樹

地域資源を活用したサービス・情報発信のかたち

=MULTIマルチ連携



M L A 連携のように 文化財のデジタル保存 や デジタルアーカイブ に依らない連携として

A (アーカイブ) を取り、

抱える課題を共有化し、互いを同じ地域の文化資源として捉え、互いの館種や専門性を乗り越え、教育普及、情報発信等の来館者サービスに繋げていく多面的な連携

= M U L T I (マルチ) 連携



0.日本オリンピックミュージアムの概要

1.スポーツ博物館における資料とその収集

2.東京2020大会における資料の収集と主な対象物

3.過去大会におけるMLA連携による大会資産継承の枠組み (事例：2012年ロンドン大会、2018年平昌大会)

4.東京2020大会におけるMLA連携による大会資産継承の枠組み

5.東京2020大会資産の利活用

根本原則

1. オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。
2. IOCの使命と役割
スポーツと文化および教育を融合させる活動を奨励し支援する。

- NOCの使命と役割 p.52～

- 国内オリンピック・アカデミー、
オリンピック博物館など、オリンピック教育を専門に担う機関の設立と、文化的なものを含めたオリンピック・ムーブメントと関連するその他のプログラムを奨励する。

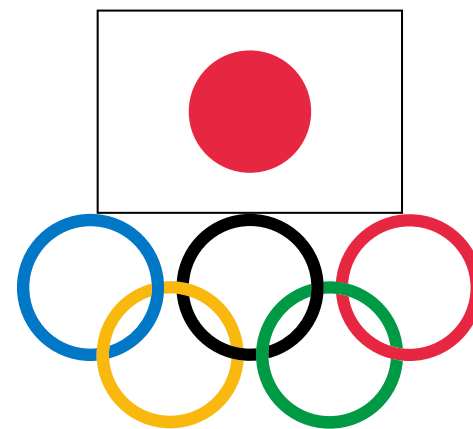
2013年1月7日提出、東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 14項目から成る立候補ファイル

オリンピック・ムーブメントへの貢献 革新と鼓舞－東京の信頼性

2020年東京大会は、そのコンセプトと精神、卓越した運営、東京都や国内外のスポーツ及び教育プログラムを通じて、さまざまな方法でオリンピック・ムーブメントに貢献していく。2020年東京大会は、オリンピックの価値、スポーツや施設、精神を東京の中心に据えることで、地域にこれらの価値を深く浸透させていき、オリンピック・ムーブメントとその発展に大きく貢献する。

(中略)

私たちは、2020年大会の東京開催を記念し、I O Cとの連携のもとで、**オリンピック・ミュージアム**を設立して、オリンピック・ムーブメントの発展に貢献していくという構想を持っている。



JAPAN OLYMPIC MUSEUM

名 称：日本オリンピックミュージアム

運 営：（公財）日本オリンピック委員会

設立主旨：オリンピック・ムーブメントの発信拠点であり、ムーブメントの持続可能性を追求する施設とする。

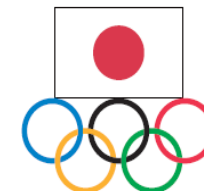
開 館 日：2019年9月14日

施設概要：

所 在 地 東京都新宿区霞ヶ丘4丁目2号 ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア
面 積 1階 約 700 m²（企画展示室・オリンピック学習室等）
2階 約 900 m²（常設展示室）

開館時間（案）：10:00～17:00

休館日（案）：月曜日 ※月曜日が祝日または休日の場合は翌平日に休館
その他、年末年始及びお盆期間、特別整理期間



JAPAN  OLYMPIC
MUSEUM

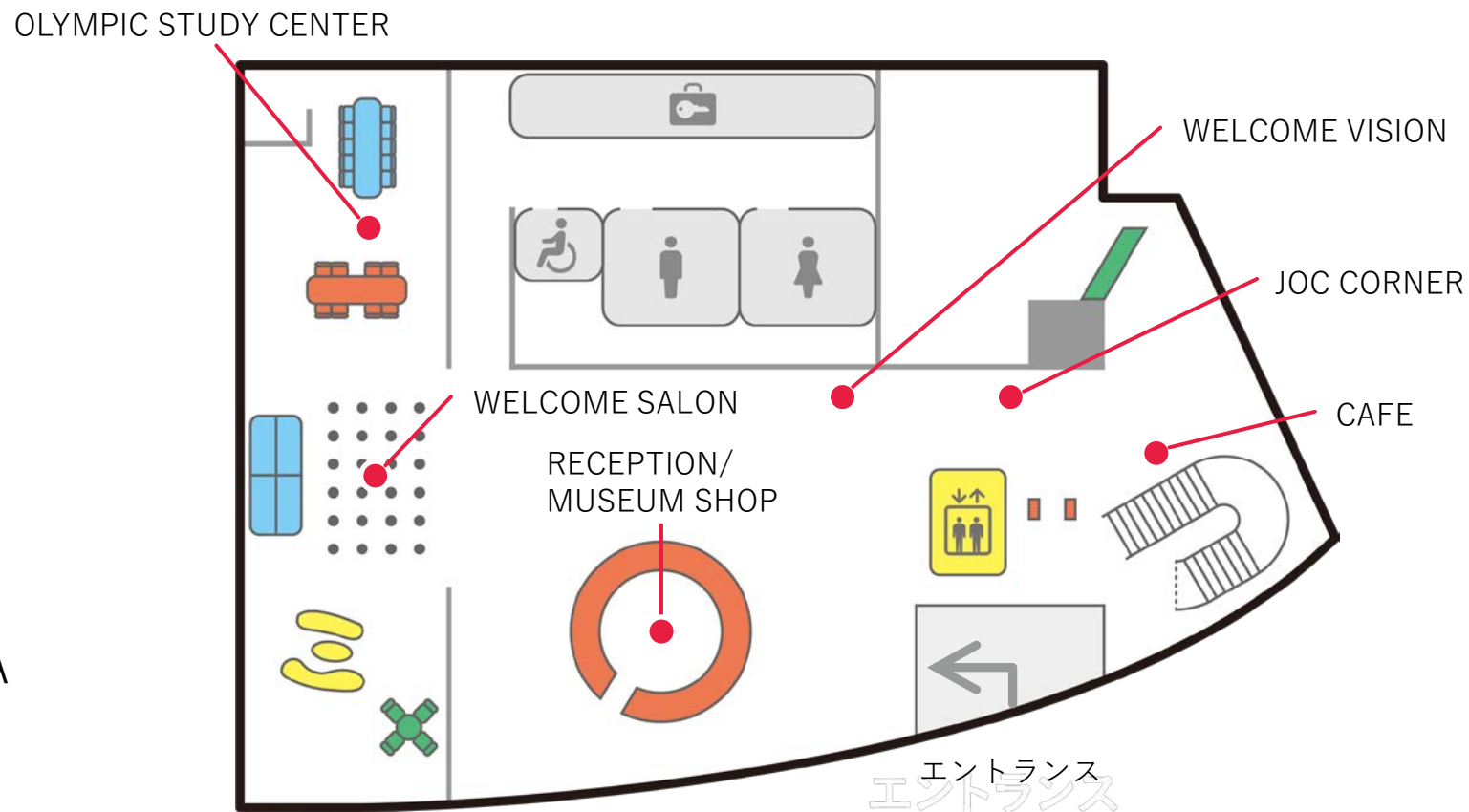


日本のオリンピック・ムーブメントの発信基地
「日本オリンピックミュージアム」
2019年9月14日にグランドオープン。

JOCの理念のもと、
「みんなのオリンピックミュージアム」として、
JOCとアスリート、来館者と共に創りあげる
ミュージアム。

1F

WELCOME AREA

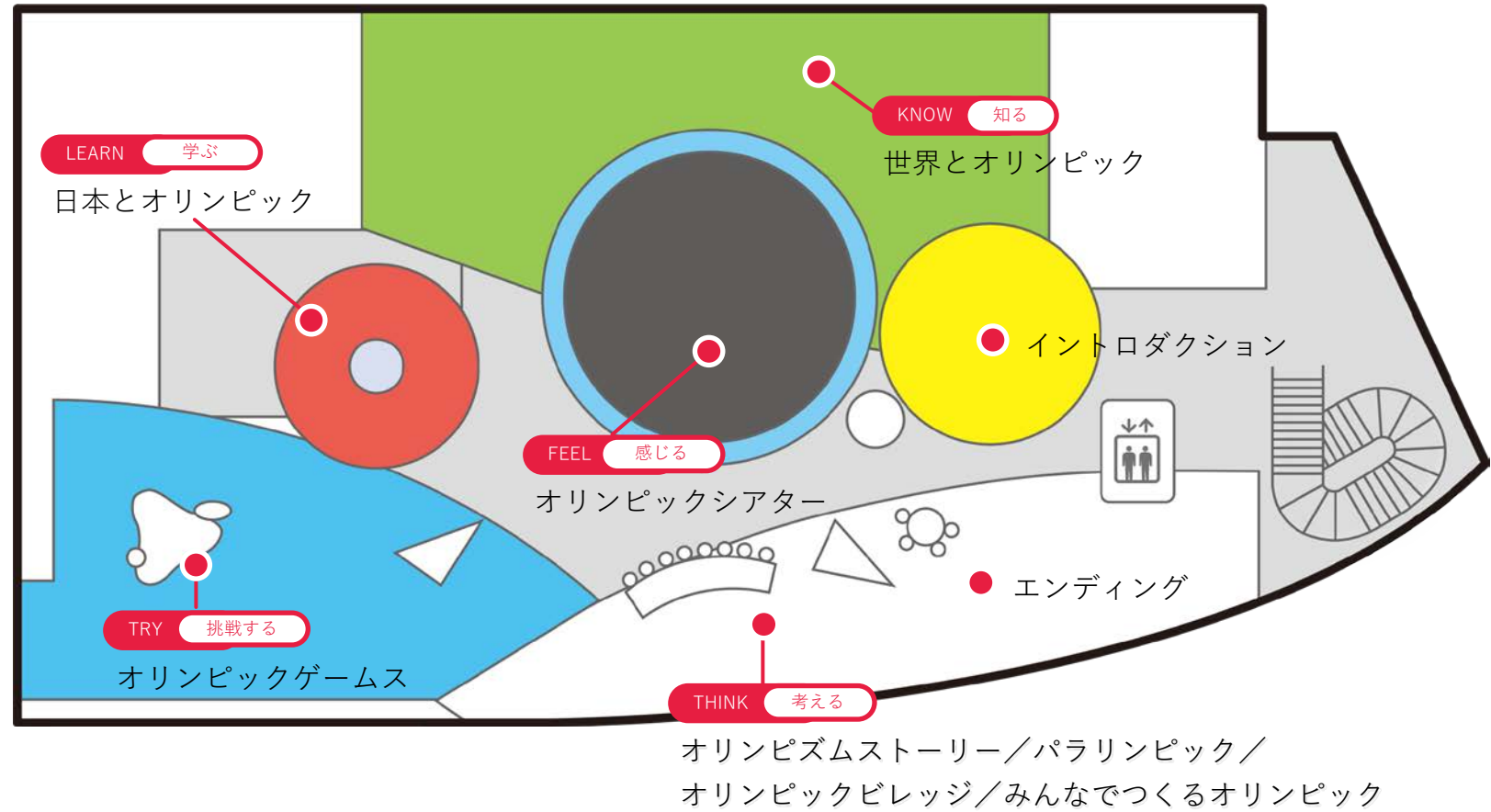


1FはWELCOME AREA

世界中からいらっしゃるお客様をお迎えするフロアです。

2F

EXHIBITION AREA



2FはEXHIBITION AREA

「知る」「学ぶ」「感じる」「挑戦する」「考える」を
テーマにした様々な展示、体験ができます。



“日本のオリンピック・ムーブメントの発信拠点”

「みんなのオリンピックミュージアム」として位置づけ、
JOCとアスリート、来館者と共に創りあげるミュージアム

<ミッション>

私たちは、オリンピックと共にオリンピックの価値・魅力をお伝えし、
スポーツの価値体験を通じて、
こころとからだの調和に満ちた豊かな社会を創ります

<ビジョン>

私たちは、スポーツを文化、教育と融合させた魅力ある活動を通じ、
持続可能な社会の実現と信頼を築き、
オリンピックの価値向上とオリンピックレガシーの継承に努めます。

チャレンジ：オリンピックとのプレミアムな体験価値を創る

日本オリンピックミュージアムにおける
オリンピックの活動

オリンピック

国民



- ・オリンピック
展示ガイド
- ・アンバサダー
- ・講演会、
ワークショップ講師



- ・展示見学
- ・イベント、講演会参加
- ・オリンピックとの
体験価値を共有

オリンピズムの
理解浸透、認知拡大

オリンピックと国民とのコミュニケーション活動の場



来場した小学生がオリンピックとハイタッチ



オリンピックが自身の体験を語る



1階『Welcome Wall』前でオリンピックと記念撮影



校外学習プログラムへのオリンピックの参画

集合

1F WELCOMESALONに集合。担当が出迎え、館内へご案内します。

5分

オリエンテーション（見学コースの調整）

2F EXHIBITION AREAに、グループ毎に移動

移動

- 施設概要や注意事項などを説明します。
- グループ毎等で見学順路を設定し、見学場所に人数が集中しないよう、見学コースを調整します。

50分

対話型解説

対話をしながら展示解説

移動

1F WELCOMESALONに、グループ毎に移動

5分

フォローアップ

1F WELCOMESALONにて、質問受付、あいさつ等を行った後、解散



1. スポーツ博物館における資料とその収集

スポーツ資料

- ①スポーツ史に残るスポーツイベント関連資料（国際競技大会、オリンピック、パラリンピック等）
- ②顕著な成績を残した個人関連資料（織田幹雄、金栗四三、王貞治等）
- ③スポーツの伝統や発展を示す競技関連資料（馬術用具、シューズ、ラケット等）
- ④競技や大会運営に関する記録、デジタル情報

スポーツ資料の収集方法

- ①大会主催者や開催会場からの寄贈、寄託
- ②アスリート個人または縁故者からの寄贈、寄託、購入
- ③競技団体や製造者からの寄贈、寄託、購入
- ④著作権者（大会主催者や放送事業者、フォトエージェンシー等）からの寄託、購入
- その他・・・オークションやコレクターアイテムの購入

1. スポーツ博物館における資料とその収集

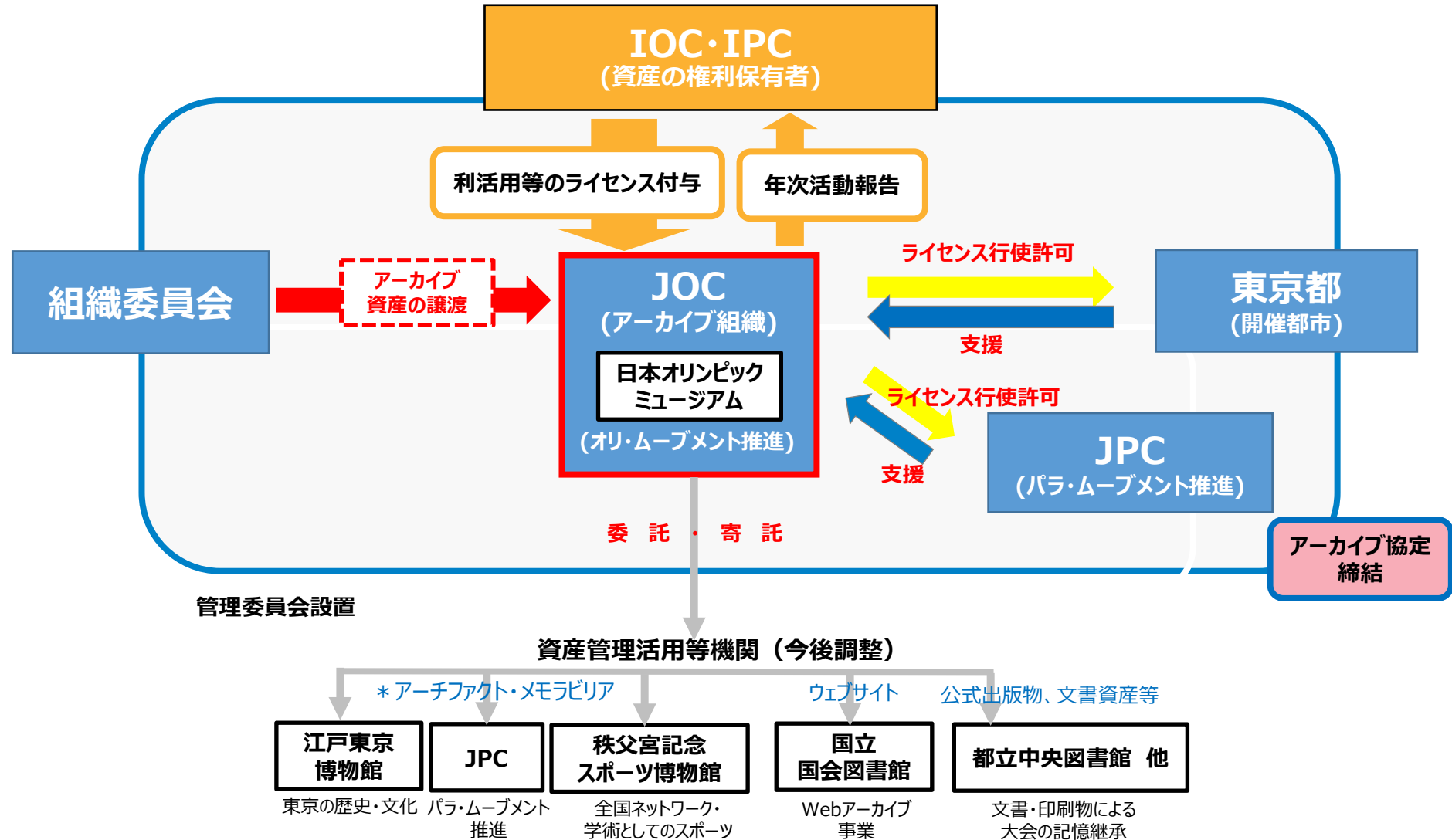
スポーツ資料

- ①スポーツ史に残るスポーツイベント関連資料（国際競技大会、オリンピック、パラリンピック等）
- ②顕著な成績を残した個人関連資料（織田幹雄、金栗四三、王貞治等）
- ③スポーツの伝統や発展を示す競技関連資料（馬術用具、シューズ、ラケット等）
- ④競技や大会運営に関する記録、デジタル情報

スポーツ資料の収集方法

- ①大会主催者や開催会場からの寄贈、寄託（→大会終了後の受け渡し）
- ②アスリート個人または縁故者からの寄贈、寄託、購入
- ③競技団体や製造者からの寄贈、寄託、購入
- ④著作権者（大会主催者や放送事業者、フォトエージェンシー等）からの寄託、購入
- その他・・・オークションやコレクターアイテムの購入

2.東京2020大会における資料収集





2.東京2020大会における主な収集対象物

○東京2020大会資産は、大会の準備・運営等に伴って作成・利用された資産のうち歴史的な価値を有し、大会の記憶・記録を伝えていくものである。

○東京2020大会資産は、開催都市契約上、原則としてI O C、I P Cに権利が帰属するが、I O C・I P Cの承認のもと、長期的に保存し、後世に受け継いでいくべき重要なレガシーである。

○東京2020大会資産のうち、以下のものを「アーカイブ資産」と位置づけ、展示等の活用を図る。

アーカイブ資産	カテゴリー	資産例
	聖火リレー	・聖火トーチ ・ランタン 等
	開閉会式・表彰式	・メダル ・表彰台 ・衣装 ・大道具 ・小道具 等
	ユニフォーム	・ボランティアユニフォーム ・技術役員ユニフォーム 等
	競技用備品	・公式球 ・競技用ゴール ・体操器具 ・卓球台 等
	ライセンス商品	・衣類 ・カバン類 ・文具 ・ぬいぐるみ 等
	イベント関連制作物	・フラッグツアー関連制作物 ・マスコット 等
	装飾物・標識類	・のぼり ・フラッグ ・ピクトグラム関係 等
	記録・報告書等 ※1	・大会報告書 ・チラシ ・ポスター ・小冊子 ・大会に向けて作成したマニュアル・各種計画、映像 等
	大規模展示物等 ※2	・大規模展示物（オリンピック・パラリンピックシンボル、大会マスコット像） ・銘板 ・オリンピック・パラリンピック名称

※1 組織委員会解散後、アーカイブ資産とならず関係法令等に基づき保管が義務付けられている資料は、別途清算人が保管する。

※2 大規模展示物等の活用等については、各々の資産の特性に応じて別途検討

5.東京2020アーカイブ資産の利活用

組織		契約等	役割	組織委資産の配分			
				現物資産		文書資産	
				Audio & Visual	Assets	Documents	Data & Statistics
協定当事者	JOC	HCC TAA	- アーカイブ組織として全体の管理 <u>オリンピック・ムーブメント推進</u>	—	- 過去大会からの長期的、系統的に収集すべき資料 - NOCとして保有すべき資料 - JOMの展示に必要な資料 - 全国的なオリ・ムーブメント活動に必要な資料	利用制限文書は東京都とJOCで調整中	
	東京都	HCC TAA	- アーカイブ組織を支援 - 開催都市としてのレガシー施策 - 都内区市町村とりまとめ				
	オリパラ局		<u>都のスポーツ施策振興</u>	受入検討の意向あり	- スポーツの感動を伝える - 東京都の施策として取り組んできたもの	- 東京都公文書館としては引受け困難 - 利用制限文書は東京都とJOCで調整中	
	(都体育施設)						
	各施設						
	江戸博		<u>東京都史としてのオリパラ展示</u>		都の歴史として伝える	—	
	中央図書館		<u>出版物を中心とした保存・利用提供</u>		- 出版物全般 - デザイン的価値	公開文書	
オブザーバー	JPC	TAA	- アーカイブ組織を支援 <u>パラリンピック・ムーブメント推進</u>	—	メダル、トーチなどのごく限られたもの	—	
	JSC(秩父宮)	—	- 全国ネットワーク <u>学術としてのスポーツ</u>	1964大会所有物と同等の資料 - 大会を象徴し、国民へ継承すべき資料		—	
	国立国会図書館		<u>インターネット資料収集事業(WARP=Web Archiving Project)</u>	- 組織委公式HPはアーカイブ済み - マルチメディア受入調整中	公式出版物を国の納本制度に則り提出	—	

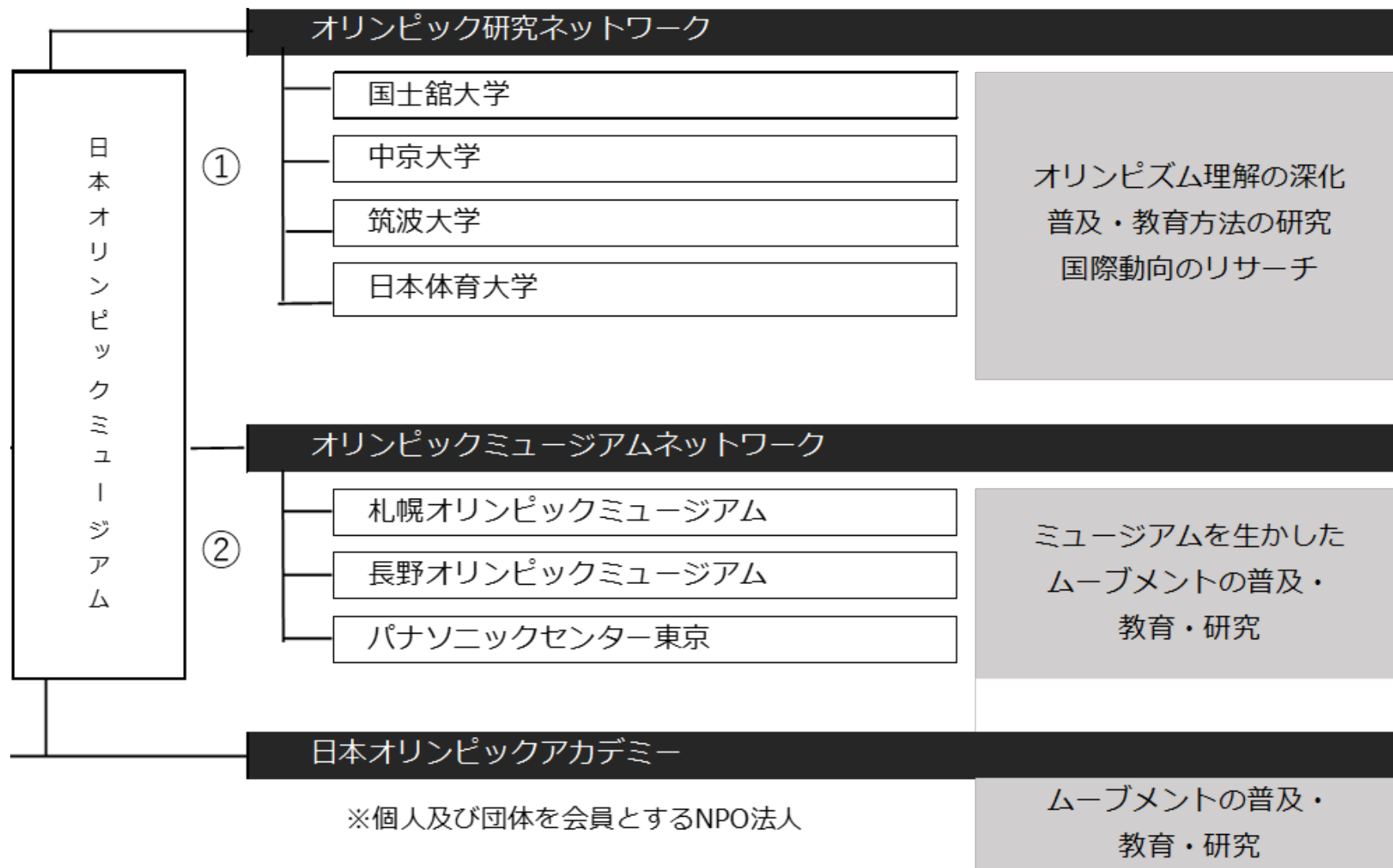
※マルチメディアについてはデジタルアーカイブ事業を持つ機関

東京2020大会資産の取り扱いについて

東京2020大会資産

	プロパティなし	プロパティあり			
枠組	リユース リサイクル	アーカイブ資産	会場記念 プロジェクト、 教育プロジェクト資産	レガシー資産	組織委員会 承認制作物等 資産
関係 機関	自治体 競技団体等	アーカイブ組織（JOC） →資産管理活用機関 （東京都、JPCほか）	会場関連自治体 学校	東京都 会場関連自治体 その他 （JSC、JCSC、ゴールド ポスト設置自治体等）	東京都 国 関係自治体 （聖火リレー、ライブ サイト等）
資産例	・ビブス ・マット ・障害物 ・ウェイト ・ゲージ	・メダル ・聖火トーチ ・開閉会式衣裳や道具 ・公文書 ・マルチメディア（画像、映像）	・使用球 ・表彰台	・オリンピックシンボル ・聖火台 ・銘板 ・標識、案内板 ・ゴールドポスト	・ポスター、ちらし ・のぼり、フラッグ ・広報誌 ・画像、映像 ・ウェブサイト
遵守 事項	なし	・アーカイブ資産協定 ・資産管理活用契約	なし	・申請書契約条件 ・レガシー設置物 に関するガイドライン	・自治体等における組 織委員会承認制作物 等の管理・利用に関 するガイドライン

JOCにおける東京2020大会アーカイブ資産の活用の方角性



JOCにおける東京2020大会アーカイブ資産の活用の方角性

(1) 収集方針について

東京2020資産の収集方針

- ①過去大会からの長期的、系統的に収集すべき資料
- ②NOCとして保有すべき資料
- ③JOMの展示に必要な資料
- ④全国的なオリンピック・ムーブメント活動に必要な資料

資料収集の柱	代表的な資料
①長期的、系統的な資料	入賞メダル、聖火トーチ、大会ポスター
②NOCとして必要な資料	日本代表選手団関連資料（公式服装、着用済み全身ユニフォーム）、オリンピック旗
③JOMの展示に必要な資料	聖火リレー関連、開閉会式関連、ビレッジ関連資料
④全国的OM活動に必要な資料	競技用備品、表彰台、ライセンス商品

(2) 資産の展示等活用について

東京2020大会の資産の活用について、特に現物資産については、日本オリンピックミュージアムでの展示により、大会終了後も末永くレガシーとして受け継がれるようにする。また、JOCが保管管理している物品については、オリンピック・ミュージアム・ネットワーク等国内における関係団体と連携した形でより多くの人々が東京2020大会のアーカイブ資産を見られるようにしたい。

→アーカイブ組織の実務を担い、ミュージアム内での展示の他、分散保管されているアーカイブの活用状況等のとりまとめも行う。

【今後の検討】

- ①承継するアーカイブ資産を一元的に管理するデジタルデータベースの構築
- ②効果的な展示の実施に向け、常設展示のリニューアルを検討

最後に 大学図書館・専門図書館に期待すること



早稲田スポーツミュージアム

「ゴールドポスト」東京五輪金メダリストゆかりの地の郵便ポストを金色に



東京五輪・パラリンピックの金メダリストをたたえて設置されることが決まったゴールドポスト（撮影・木下淳）

<ユニフォーム・色紙展示>

山内大夢（陸上）、須崎優衣（レスリング）、大塚蓮宣（バレーボール）、本橋菜子（バスケットボール）、鈴木幸華（パラ競泳）、加納虹輝（フェンシング）、松山恭助（フェンシング）





東京2020大会で 見えた スポーツの価値

JAPAN
OLYMPIC TEAM 2020

Japan Olympic Team 2020 – Sport Values Seen
in the Tokyo 2020 Games

| 会 期 | 2021年10月19日(火)～2022年1月16日(日)
| 会 場 | 日本オリンピックミュージアム 1階「WELCOME SALON」
| 主 催 | 公益財団法人日本オリンピック委員会
| 協 力 | アフロ、フォート・キシモト、読売新聞社、日本サッカーミュージアム

宣伝

